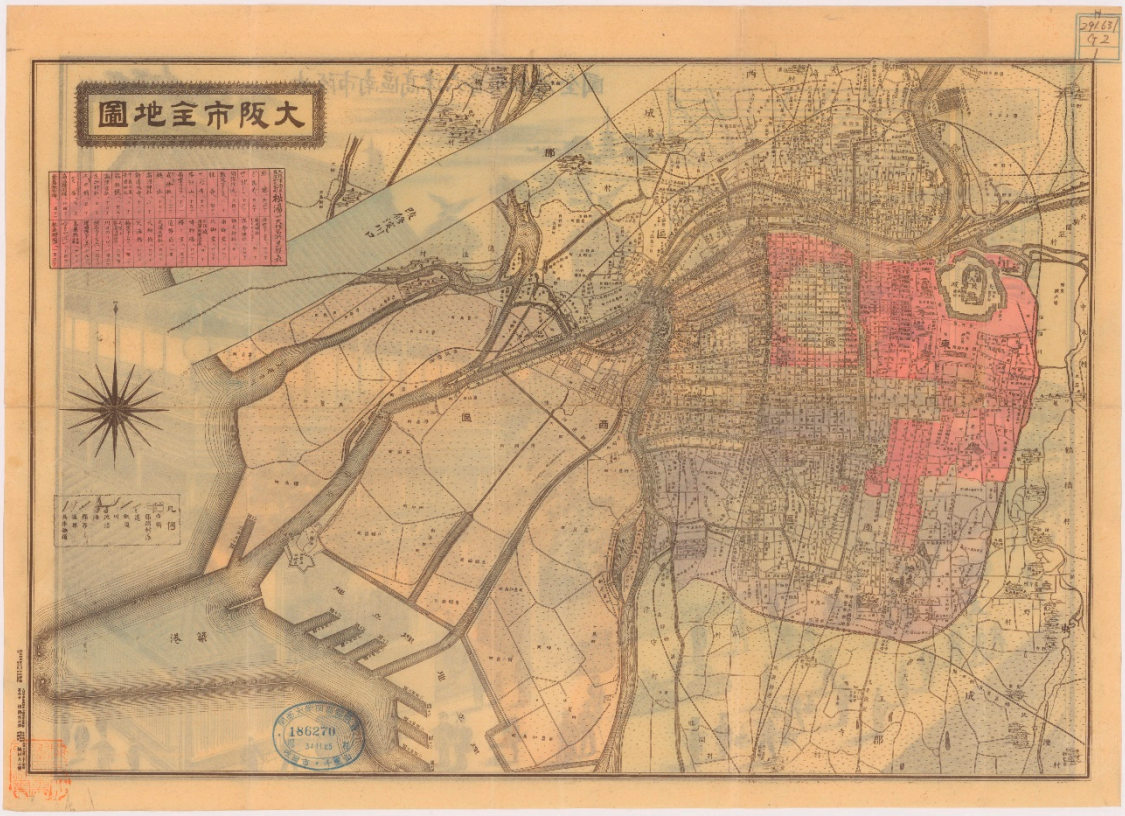
『大阪市全地図』

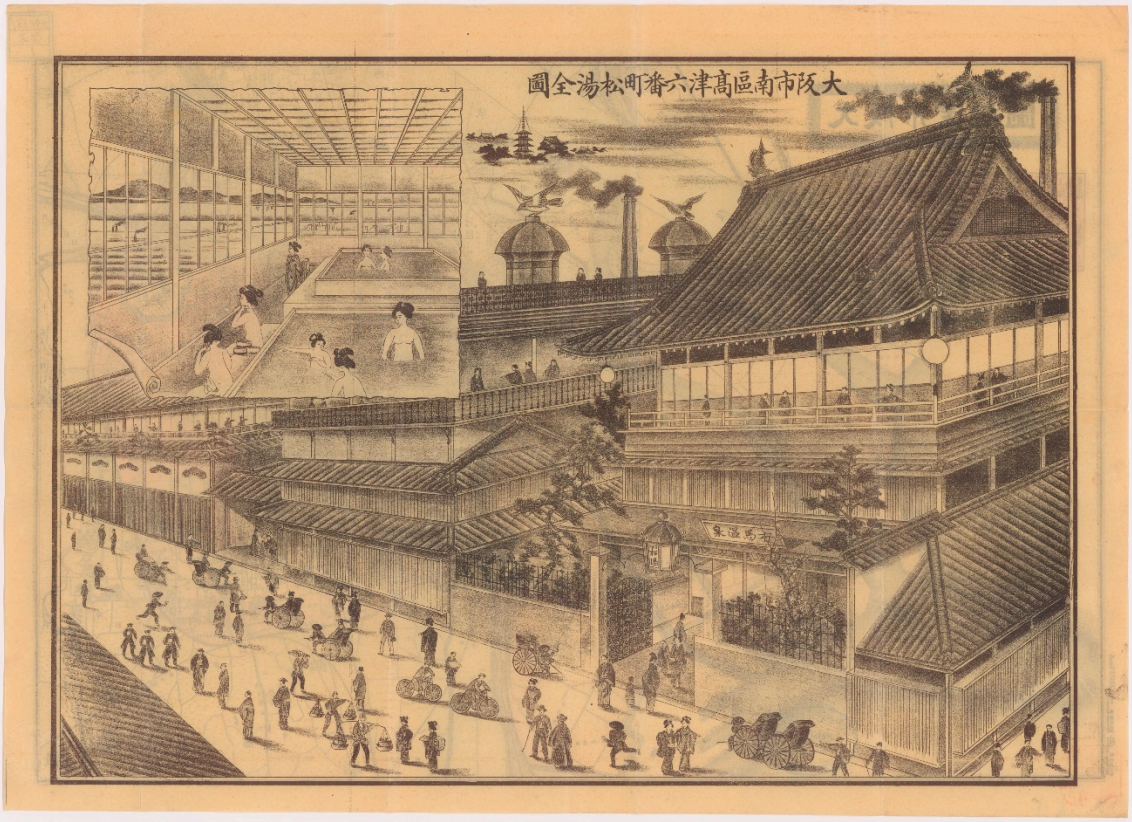
明治 34 年　後藤常太郎（著作）　植田五三郎（発行者兼印刷者）　36 ㎝×52 ㎝
関西大学図書館蔵

この地図は、「松湯」の利用客向けに制作された地図のようで、裏面は「大阪市南区高津六番町松湯全図」で、「松湯」の外観と風呂の様子が描かれる。地図では、高津六番町に丸囲みの「松湯」が記されている。「大阪市南区高津六番地松湯ヨリ大阪名所里程表」が付録として印刷される。地図上にピンク系の色が塗られている地域があるが、その意味は不明。里程表とは関係がない。

地図は銅版画で、「凡例」が示され、町名、橋名まで詳しく描かれている。築港桟橋は「長二五十間幅九十尺」とあり、他の入江にも長さと幅が記される。現在の天王寺公園には、明治 36 年に開催される「第五回内国勧業博覧会敷地」とある。JR 難波駅は「関西鉄道湊町停車場」、南海汐見橋駅は「道頓堀停車場」で「高野鉄道」、南海難波駅は「難波停車場」で「南海鉄道」となっている。中之島の玉江橋南側に「尋常中学校」とあるが、現在の府立北野高校で、明治 32 年から「大阪府第一中学校」となっている。ちなみに、中之島の先端は難波橋を越えている。淀川が「改修淀川口」と記載されるのも注目したい。当時は改修工事中、地図上では南北の川筋が「改修淀川口」によって寸断されている。

さて、この「松湯」、あちこちと調べてみたが情報がなかなか得られないところへ、地図ワークショップに熱心に参加してくださる江口さんという方から、「国会図書館デジタルコレクション図書館資料送信にある『大阪経済雑誌』に載っていました。」と情報をいただいた。関西大学図書館書庫に掲載誌があり、概要を知ることができた。江口さん、ありがとうございました。『大阪経済雑誌』第 9 年第 15 号（明治 34 年 4 月 5 日）の「浪花改良風呂（二）」の「第五槽（ふね）」が「松の湯」で、地図裏面と同じ建物外観の挿絵がある。明治 33 年に新築開業、「四階　浴客の運動場、三階　温泉（伊香保）、二階　同（道後）、階下　蒸風呂、西の階下　洗場（有馬）、東の階下　会席料理（松盛館）、同　旅館、離れ二階　旅館、三階　浴客の運動場」で、湯屋、宿屋、料理屋兼業のスーパー銭湯の魁だ。料金は一等から三等で、一等は「宿料（一週間）七円、賄料（一日）一円、席料（一人前）十五銭」、「構への大きいのに似合ず、勘定は案外に廉なり」だそうだ。「仲居の多きは驚くべし」で、17 歳から 27 歳まで 14 名。「東京ながし」という、イラストでは女性による垢すりのようだが、「流し元祖　清七」の広告もある。料理の料金の説明のあとに、なんだか怪しげな一文が続く。「一席に仲居一人は必らず附切、唯聞きたいのは三階の温泉に、肩揉み流しの外其他御好みに応ずるといふ一問題だ……」（「其～ず」まで原文は▲ルビ）。ところで、階上の水漏れはもちろん、とりわけ湯のくみ上げは、当時の建築技術でどのようにしていたのだろうか。


大阪市全地圖


大阪市南區高津六番町松湯全圖